

プレス加工技術とひらめきで家庭用たこ焼き器の量産に成功した企業

大阪府守口市の山岡金属工業株式会社(従業員60名、資本金4,000万円)は、1962年に日本で初めて家庭用たこ焼き器を開発し、最盛期には月1万台以上を売り上げる大ヒット商品にまで育てあげた中小企業である。

家庭用たこ焼き器は、同社に入社したばかりで、若手であった山岡俊夫氏(現在は同社の社長)の「何か新しいものを作ってやろう」という気概から誕生したものであった。当時の同社の強みはプレス加工技術であり、山岡氏は「プレス加工技術を活用したい」といつも考えていたという。そうした時、山岡氏は、大阪市難波の道具屋筋で、職人がたこ焼き器を手作りで製造している光景を見て、「プレス加工で作れれば安くできるのに」と、ふと頭に浮かんだ。

たこ焼き器は、窪みを加工する必要があるため、一般的なプレス加工では技術的に難しい面があったが、山岡氏は同社の技術であれば複雑な形も作れると考え、家庭用たこ焼き器をプレス加工で製造するのに挑戦した。この挑戦によって誕生した家庭用たこ焼き器は、大ヒット商品となり、大阪では嫁入り道具として購入する人もいたほど、人々の生活に浸透していったという。現在も、家庭用たこ焼き器では同社の製品が9割以上の市場シェアを占めている。

同社は、家庭用たこ焼き器の成功を契機に、ガス調理機器等の開発に取り組んできており、現在までに、約200種類の製品を作ってきた。山岡社長は、「今は、昔よりも技術が高度化、複雑化し、新しい製品を生み出すのが難しい時代になってきています。しかし、そのような中でも、若い人たちには新しいものを作ることにとんどんチャレンジしてほしいと思っています。」と、次世代による挑戦に期待を寄せている。



家庭用たこ焼き器